

みなべ・田辺の梅システム、登録申請

世界農業遺産認定のため、FAO（国連食糧農業機関）調査員が2名、現地調査に訪れました。5月22日（金）午後、本校ウメ園を中心に南高市場等を見学。生徒たちが実習に取り組む中、農場長の説明、生徒への質問等熱心に見聞していただきました。

その後、南部ロイヤルホテルに場所を移し、仁坂知事をはじめ関係各所からプレゼンテーションが行われました。その中で農場長が、農業クラブ執行部の代表3名とともに南部高校と南高梅の関係についてプレゼンを行いました。調査員の先生方に好印象を与えることができたと思います。

品種登録50周年の節目を迎え、先輩方の偉業を心に刻み、勉学に実習に励んで行きたいと思います。



国体リハーサル、おもてなし

6月6日（土）・7日（日）、第29回リード・ジャパンカップ和歌山大会が、国体のリハーサル大会として開催されました。前日にはすっかり競技会場に様変わりしていました。

ボランティアとして生徒たちが参加しました。たくさんのお客様を、緊張しつつも笑顔で、自分たちの作ったジャムを配ったり、販売したりしておもてなししました。

10月3日（土）～5日（月）に開催される本大会では、さらにテキパキと元気よくやってくれることでしょう。



教育実習、松川先生

5月25日（月）～6月5日（金）まで、園芸科の卒業生である、「松川雅哉」先生が授業をしました。初めは緊張していましたが、生徒の時と変わらないあふれる笑顔と、硬式野球で鍛えた不屈の精神力で、日々奮闘していました。

農場職員一同、初心を忘れず、ともに教鞭の執れる日を心待ちにしています。



農場探検隊 ～南高梅、収穫～

梅雨に入り、梅の収穫も最盛期です。梅園の地面に敷いている青いネットが目に入ります。梅干しなどの加工に使うものは、完全に熟して落果させてから収穫します。梅の皮は他の果樹類に比べ非常に薄いので、地面に落ちると傷がついてしまいます。梅酒や梅ジュースには、青梅を用います。樹に成っている果実を手で摘み取って収穫します。

今年は果実が落ちるのが早く、収穫が大変です。果実が成長するためには、様々な要因が絡みますが、今年はずぼみの時期から比較的気温が高かったことが原因の一つのようです。毎日の最高気温と最低気温の平均を足し算した値を積算温度と言います。植物の生育を予測する値の一つです。

